

## 斐伊川水系支川の魚類相調査 中間報告

宮永 桜（環境修復プロジェクト）

宍道湖自然館の展示生物は開館当初から自家採集や地元漁業者の協力によって調達している。開館以来 20 年間の採集記録をまとめるにあたり、過去の採集で記録された魚類が現在でも見られるのか比較するため、斐伊川支川で調査を実施した。

調査は 2022 年度から 3 年間の予定で、2022 年は 4 河川 9 地点（三刀屋川、吉田川、阿井川、久野川）、2023 年は 2 河川 7 地点（伯太川、飯梨川）を対象とした。期間は 5 月から 10 月までの 6 ヶ月間で、毎月 1 回の定点調査を実施した。調査方法は投網、タモ網、セルビンを使用し、調査に際しては島根県より特別採捕許可を得て実施した。採集した生物の種および個体数、全長（最大・最小）を記録した。あわせて今回の調査で確認した魚類を、過去の記録（自然館での採集記録、他機関による調査記録等）と比較した。

今回の調査では、過去に採集記録のある魚類すべてを確認することはできず、しまねレッドデータブック掲載種および環境省レッドリスト掲載種も確認種数は減少した。また、今回の調査で確認した外来種はアメリカザリガニのみで、魚類は確認できなかった。



カワムツ



アカザ



タモロコ



カジカ中卵型